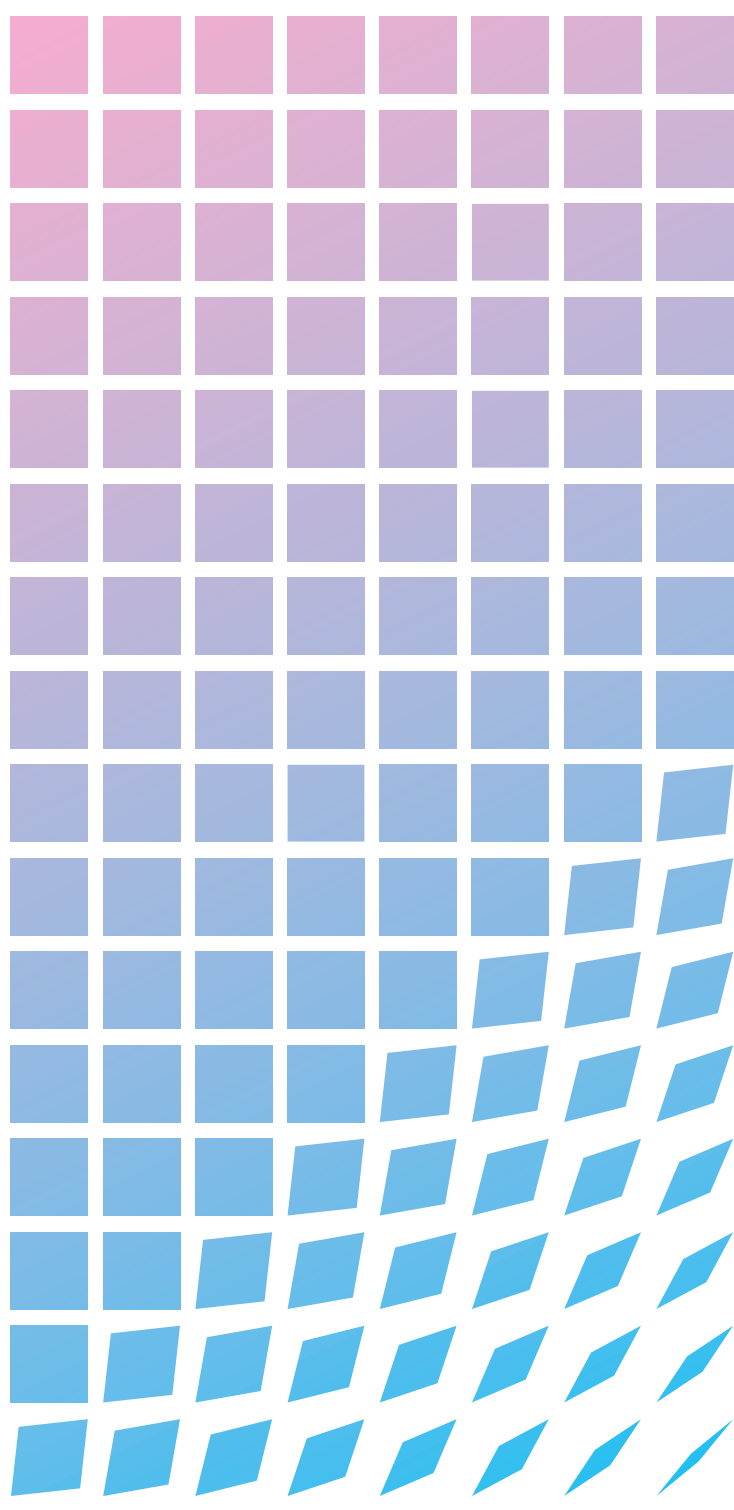


# 第97期 事業報告書

平成17年4月1日 ▶ 平成18年3月31日



大正製薬株式会社





代表取締役社長 上原 明

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は、格別のご支援ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、当社第97期（平成17年4月1日から平成18年3月31日まで）の営業の概況と決算の状況をご報告申し上げます。

当社は「健康と美を願う生活者が納得する、優れた医薬品・健康関連商品、情報及びサービスを、社会から支持される方法で創造・提供することにより、社会へ貢献する」という経営理念のもと、健康増進・予防から治療までトータルでカバーできる製薬企業を目指しています。そのために、一般用医薬品（OTC）を中心としたセルフメディケーション事業、医療用医薬品を取り扱う医薬事業の二つの事業が両輪となって企業価値の最大化に努めています。

### 健康関連領域の業界動向と当社の対応

医薬品業界はいま、大きな転換点に立っています。健康関連領域という視点で見ると、ターゲット市場は医療用医薬品（6.7兆円）、一般用医薬品（1.2兆円）から、機能的食品（1.5兆円）、スキンケア（6,300億円）へと広がります（市場規模はいずれも平成16年度、当社推定）。生活者の健康に対するニーズは、従来の「治療」領域から生活習慣病などの「予防」や「アンチエイジング」といった領域にまで広がっています。このような状況のなか、機能的食品やスキンケアの市場では、成長市場をめぐる業界の枠を超えた競争が繰り広げられています。

こうした環境の変化に対して、当社は一般用医薬品の市場およびシェアの拡大を図ることはもちろん、医療用医薬品の創薬・開発にも一層注力し、本業である医薬品領域を深耕してまいります。さらに、製

薬企業としての技術力や信頼感、当社のブランド力や販売力を活かして、美容や食品、健康関連商品といった成長性の高い周辺領域でのビジネスも拡大したいと考えています。

## ■ 他社とのパートナーシップについて

健康や美容の市場は、今後も拡大への大きな可能性を秘めています。そのため、ここでの成長をタイムリーに捉えるには従来の枠を超えた取り組みも欠かせません。そこで、今後は生活者の多様化するニーズにお応えする新商品の開発や新領域の探求をさらに加速させる必要があります。そのために、我々と違う発想やノウハウをもつ企業とのパートナーシップを拡充していきます。このような考えのもと、昨年は養命酒製造株式会社と業務・資本提携を行いました。今後も、お互いの風土を尊重しながら事業を拡大することのできる企業との業務及び資本提携を行っていきます。

## ■ 平成18年3月期の業績について

平成18年3月期は、市場の変化への対応に追われた年でした。2年連続の減収減益となったのは、ドリンク剤の市場の縮小および一般用医薬品市場全体の縮小の中、「リポビタンD」「パブロン」「リアップ」といった基幹商品の売り上げが伸び悩んだことが要因です。一方、医療用医薬品は、重点商品に絞った

営業施策が奏効し、ほぼ計画どおりの結果が得られました。

一般用医薬品については、戦後以来の大きな法制度の改正に伴い、新しい市場が形成されようとしています。特にスイッチOTC（医療用医薬品として使用されている成分を一般用医薬品に転用すること）については承認の加速、領域の拡大が期待され、2、3年後には大変有望な市場となっていることでしょう。私たちは、変化する市場に対応する商品の開発に既に着手しています。さらに、健康や美容といった周辺領域についても「ヘルス&ビューティ事業」を新設するなど強化に取り組んでいます。

大正製薬の特長は、セルフメディケーション事業と医薬事業の両輪で成長を目指す点にあります。当社はこの両輪をバランス良く成長させて、シナジー効果を生み出すと共に、成長の加速を求めて国内外の企業との提携を積極的に展開していきます。我々の豊富なキャッシュについては、このような提携のほか、新薬の研究開発や成長領域における製品の導入などに投入し長期的な成長を図ることで、企業価値の向上を目指す考えです。

次代を築くための長期的な投資に配慮しながら、配当性向の目標を30%とし、株主の皆様への還元を考えてまいります。今後とも皆様のより一層のご支援をお願い申し上げます。

## 経営成績

当連結会計年度におけるセルフメディケーション事業は、一般用医薬品市場全体は前年比微減となりましたが、当社グループの主力品であるドリンク剤の市場におきましても縮小傾向が続き、依然として厳しい環境におかれましては。一方、医薬事業は、市場全体としては堅調に推移致しましたが、医療費適正化の諸施策の浸透、競争激化に加え薬価引き下げに向けての買い控え等の影響もあり、引き続き厳しい事業環境におかれております。

当社グループはこのような状況の下、新製品の投入や販売体制の強化に努めるなど、積極的な営業活動を展開しましたが、連結売上高は2,714億7百万円（前年比80億29百万円減、2.9%減—以下括弧内文言「前年比」省略）となりました。

コスト面につきましては、広告宣伝費、人件費などを中心として見直しを進めたことにより、販管費全体で前年比15億58百万円の減少となりました。

利益面では、売上高の減少のほか、売上原価率が上昇したことなどにより経常利益は497億48百万円（83億14百万円減、14.3%減）となりました。また、当連結会計年度は関係会社株式の売却益（85億円）が生じたため、当期純利益は358億84百万円（3億94百万円増、1.1%増）となりました。

## セルフメディケーション事業

### <一般用医薬品等>

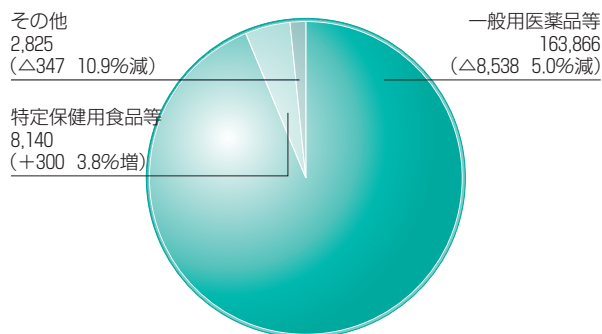
ドリンク剤の「リポビタミンシリーズ」は、医薬部外品化により販路が拡大した「リポビタミンDスーパー」に加え、新製品「リポビタミンウインズエース」「リポビタミンDW」などが貢献致しましたが、主力の「リポビタミンD」は上期の遅れを取り戻せず、シリーズ全体では914億円（3.9%減）でした。風邪薬「パブロンシリーズ」は、上期の原料需給逼迫による生産の遅れの影響を挽回したものの、下期に花粉症が流行しなかったことから鼻炎薬が伸び悩み、261億円（4.4%減）に止まりました。壮年性脱毛症における発毛剤「リアップシリーズ」は、昨年発売した日本初の女性用発毛剤

（単位：百万円）

セルフメディケーション事業	174,831	(△8,585)	4.7%減
一般用医薬品等	163,866	(△8,538)	5.0%減
特定保健用食品等	8,140	(+ 300)	3.8%増
その他	2,825	(△ 347)	10.9%減

セルフメディケーション事業  
174,831(△8,585 4.7%減)

（単位：百万円）



「リアップレディ」の市場への浸透が見込みより遅れていることなどにより、120億円（10.9%減）でした。その他のシリーズでは水虫薬「ダマリンシリーズ」が26億円（9.8%増）と健闘しました。

#### <特定保健用食品等>

「リビタシリーズ」の「グルコケア」、新製品「広東美人」「リビタQ10緑茶」が寄与し、国内の特定保健用食品等の売り上げは38億円（10.0%増）、うち「リビタシリーズ」は24億円（16.9%増）となりました。また、海外におけるドリンク剤の売り上げは43億円（0.9%増）でした。

#### <その他>

ホテル事業等を行う子会社の売り上げ12億円を含めています。



リボビタミンD



パブロンSゴールド錠



リアップ



リアップレディ

### ヘルス&ビューティ事業の展開に着手

当社はこれまで、優れた医薬品や機能性食品などを開発・販売することで、生活者の健康的な生活を送りたいという願いに貢献してまいりましたが、セルフメディケーション事業のさらなる強化に向けてヘルス&ビューティ事業の展開に着手致しました。その第1弾として、女性にとって健康であるとともに、美しくあることも大切な要素という考えから、医薬品の開発で培ったノウハウを活かして、サプリメントと基礎化粧品4品からなる「ナリッシュ〈美望活彩〉（びぼうかつさい）」を開発、本年3月に発売開始致しました。「ナリッシュ〈美望活彩〉」は、発売と同時に立ち上げた通信販売部門「大正製薬ダイレクト」で購入することができます。

当社は、今後も生活者の美と健康への願いに貢献できる製品の開発を行ってまいります。



サプリメント



基礎化粧品

### <医療用医薬品>

大正富山医薬品における営業活動の効率化が奏効し、主力のマクロライド系抗菌薬「クラリス」が275億円（0.1%増）、末梢循環改善剤「パルクス」が120億円（0.1%増）と微増、ニューキノロン系抗菌薬「オゼツ

クス」、注射用抗菌薬「ペントシリン」「パシル」なども概ね堅調に推移しました。また、昨年発売した経皮吸収型鎮痛・消炎剤「スミル」も貢献し、大正富山医薬品の売り上げは827億円（0.5%増）となりました。

### 開発品の状況（平成18年5月31日現在）

開発段階	製品名・開発コード	薬効・適応症	開発形態	オリジン	備考
申請中	T-3811	ニュータイプのキノロン系抗菌薬	富山化学共同	富山化学	
	クラリス	ラベプラゾール、アモキシシリンとの3剤併用によるヘリコバクター・ピロリ除菌	エーザイ、アボットジャパン他共同	大正製薬	用法・用量変更
フェーズ2	NT-702 (海外:NM-702)	閉塞性動脈硬化症、腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 (閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行)	日産化学共同	日産化学	
	NT-702	気管支喘息	日産化学共同	日産化学	
	TS-033	1 & 2型糖尿病	自社	大正製薬	国内、海外ともにフェーズ2
	TS-022	アトピー性皮膚炎	自社	大正製薬	
	パルクス	腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行	自社	大正製薬/三菱ウェルファーマ	適応追加
フェーズ1	TS-021	2型糖尿病	自社	大正製薬	海外：導出 (イーライ・リリー社)
	TS-041	うつ病・不安症	ヤンセン共同	大正製薬	海外
	TS-011	脳梗塞急性期	自社	大正製薬	海外

<その他>

アボットジャパン社向け中間製品の売上げが103億円 (23.7%増)、骨充填剤「バイオベックス」が8億円 (66.9%増) と堅調に推移しました。

<工業所有権等使用料収益>

クラリスロマイシンが米国で特許切れとなったことなどに伴い、31億円 (37.0%減) となりました。

<開発品の状況>

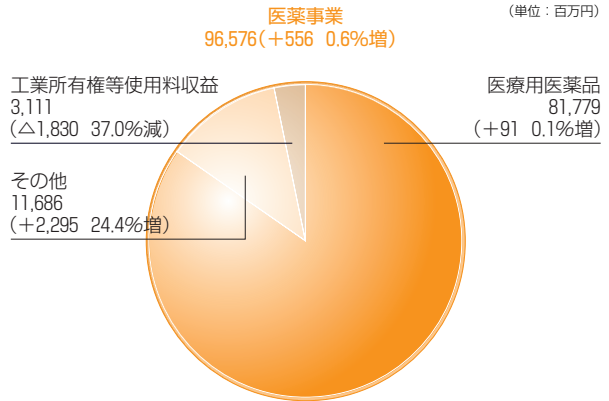
主力のマクロライド系抗菌薬「クラリス」の小児用製剤「クラリスドライシロップ小児用」の製剤改良品が本年4月に承認されました。また、ニュータイプのキノロン系抗菌薬「T-3811 (富山化学工業との共同開発品)」も富山化学工業により申請されました。

閉塞性動脈硬化症治療薬「NM-702 (日本での開発コード：NT-702)」は、米国で間歇性跛行 (かんけつせいはこう) に対するフェーズ2試験が終了し、良好な結果が得られました。一方、自社開発品の糖尿病治療薬「TS-033」は国内、海外ともにフェーズ2に移行、同じく自社開発品のアトピー性皮膚炎治療薬「TS-022」は国内でフェーズ2に移行しました。

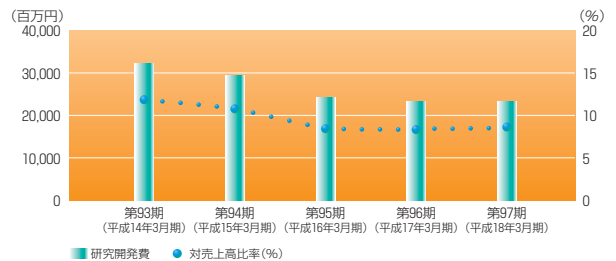
(単位：百万円)

医薬事業	96,576	(+ 556)	0.6%増)
医療用医薬品	81,779	(+ 91)	0.1%増)
その他	11,686	(+2,295)	24.4%増)
工業所有権等使用料収益	3,111	(△1,830)	37.0%減)

(単位：百万円)



研究開発費、売上高比率



## 財務内容

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ506億円増加し、6,644億31百万円となりました。有形固定資産は27億71百万円の増加、投資その他の資産は、債券の購入等による投資有価証券の増加などにより523億30百万円増加しました。

一方、流動資産は、受取手形及び売掛金が22億1百

万円減少、有価証券が77億74百万円減少したことなどにより19億87百万円減少しました。株主資本は、株式等評価差額金が201億14百万円増加したこと、資本控除項目である自己株式が196億94百万円減少したことなどにより497億30百万円増加し、5,673億64百万円となりました。

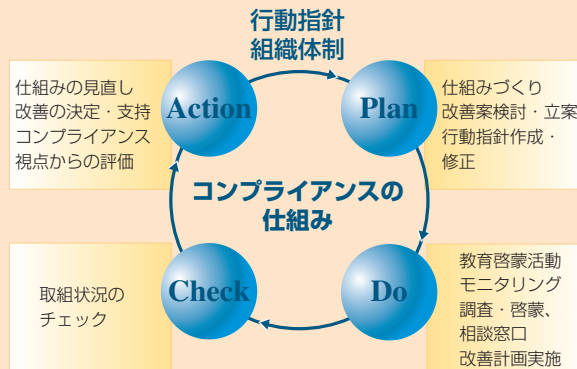
## コンプライアンスへの取り組み

当社は「健康と美を願う生活者が納得する、優れた医薬品・健康関連商品、情報及びサービスを、社会から支持される方法で創造・提供することにより、社会へ貢献する」ことを企業使命としています。また『紳商※』であるべきという企業理念を正しく理解し、より一層各自の職務において実践できるように、2001年にコンプライアンス推進体制を整備し全社をあげて啓発活動に取り組んでいます。

※紳商：社会・生活者の皆様に正々堂々と胸を張れるように正直・勤勉・熱心に紳士的なビジネス活動を実践する。

## コンプライアンスの仕組み

コンプライアンスについての意識を高め、継続的に仕組みを改善します。





生命科学関連分野への支援

●上原記念生命科学財団

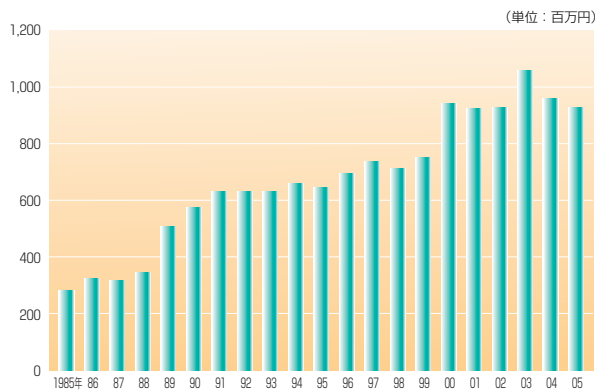
上原記念生命科学財団は、1983年3月に他界した故上原正吉氏（元当社社長、会長）の足跡を記念すると共に、当社の創業70周年記念事業として1985年2月に設立されました。

1985年度から、生命科学に関する研究に従事している方々に対して、研究助成（助成金贈呈）、海外留学助成、研究において功績をあげられた方の褒賞（上原賞）、国際シンポジウムの開催などの事業活動を行っています。

助成金などについては、研究者の方々のご要望に応え、助成件数の増加や金額の増加など、内容の充実に努めています。国際シンポジウムについては、既に8回の開催を数えています。

1985年度から2005年度までの21年間において贈呈した助成金（上原賞含む）の累計額は、約142億円に達しています。

助成金額の推移



※当社の廃棄物ゼロ・エミッションの定義：

「事業所から発生する産業廃棄物および事業系一般廃棄物の埋立処分量を廃棄物総排出量の0.5%以下にする。但し、埋立処分量にはサーマルリサイクルされた廃棄物、工場排水、生活排水（汚水）および納入業者への返却物は廃棄物に含まない」としています。

環境対応の推進

当社では環境問題を企業活動の根底にある重要な課題と捉え、2001年度に制定した、環境に関する「基本方針／行動指針」に基づいて、省資源、二酸化炭素排出量の削減、廃棄物の削減などの環境活動を推進しています。

2002年度に本社組織による環境監査を導入し、環境リスクのさらなる低減を推し進めるとともに、情報開示の一環として「環境・社会報告書」を毎年発行しています。

また、2003年度には100mLドリンク剤びんの9%軽量化を実現し、2005年度には大宮・羽生・岡山の国内全3工場で廃棄物ゼロ・エミッション※を達成致しました。

セルフメディケーションの振興

世界各国において重要な健康政策課題として、セルフメディケーションの振興が本格的に推進されています。わが国においても、2002年5月にNPO団体「セルフメディケーション推進協議会（SMAC：スマック）」が設立されました。当社もその趣旨に賛同し、SMACの活動に協力しています。また、生活者に分かりやすい健康情報をお届けする季刊誌「セルフドクター」の発行や、ウェブサイト「selfdoctor.net」上での情報提供も行い、健康管理に役立つ貴重な情報源として好評を得ています。



●連結貸借対照表

(百万円)

科目	当期	前期
	平成18年3月31日現在	平成17年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	271,156	273,144
現金・預金	155,205	147,265
受取手形・売掛金	76,718	78,920
有価証券	3,492	11,267
たな卸資産	23,612	22,905
その他	12,127	12,786
固定資産	393,274	340,658
有形固定資産	99,041	96,270
建物・構築物	50,638	51,001
機械装置・運搬具	10,095	11,015
土地	27,233	27,230
その他	11,075	7,022
無形固定資産	10,758	13,244
投資その他の資産	283,474	231,143
投資有価証券	276,614	215,785
その他	6,860	15,357
資産合計	664,431	613,802
(負債の部)		
流動負債	57,724	56,344
支払手形・買掛金	21,798	20,370
短期借入金	260	205
未払金	14,062	12,927
未払法人税等	7,237	9,486
その他	14,366	13,354
固定負債	37,165	38,543
退職給付引当金	18,763	34,506
その他	18,401	4,037
負債合計	94,890	94,888
(少数株主持分)		
少数株主持分	2,176	1,279
(資本の部)		
資本金	29,804	29,804
資本剰余金	14,935	14,935
利益剰余金	515,006	506,797
株式等評価差額金	34,065	13,951
為替換算調整勘定	(-)3,193	(-)4,905
自己株式	(-)23,253	(-)42,947
資本合計	567,364	517,634
負債、少数株主持分及び資本合計	664,431	613,802

●連結損益計算書

(百万円)

科目	当期	前期
	平成17年4月1日▶平成18年3月31日	平成16年4月1日▶平成17年3月31日
売上高	271,407	279,437
売上原価	86,408	84,762
返品調整引当金繰入額	278	92
販売費及び一般管理費	138,325	139,883
営業利益	46,395	54,698
営業外収益	5,178	4,913
営業外費用	1,825	1,547
経常利益	49,748	58,063
特別利益	9,348	669
特別損失	785	392
税金等調整前当期純利益	58,311	58,341
法人税、住民税及び事業税	18,625	22,141
法人税等調整額	3,892	483
少数株主利益(-)は損失	(-)89	226
当期純利益	35,884	35,489

●単体貸借対照表

(百万円)

科目	当期	前期
	平成18年3月31日現在	平成17年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	241,273	247,333
現金・預金	138,849	134,545
受取手形・売掛金	65,595	67,647
有価証券	3,331	11,227
その他	33,497	33,912
固定資産	407,864	354,474
有形固定資産	94,092	91,329
建物・構築物	48,967	49,438
機械装置・運搬具	9,563	10,346
土地	24,690	24,690
その他	10,871	6,853
無形固定資産	10,625	13,102
投資その他の資産	303,146	250,042
投資有価証券	272,540	210,523
その他	30,606	39,518
資産合計	649,138	601,807
(負債の部)		
流動負債	43,395	42,390
買掛金	15,000	13,134
未払金	12,674	12,010
その他	15,721	17,246
固定負債	33,727	35,331
負債合計	77,123	77,722
(資本の部)		
資本金	29,804	29,804
資本剰余金	14,935	14,935
資本準備金	14,935	14,935
利益剰余金	516,965	508,582
利益準備金	7,451	7,451
任意積立金	491,676	484,295
固定資産圧縮積立金	3,151	3,269
別途積立金	488,525	481,025
当期未処分利益	17,837	16,835
株式等評価差額金	33,563	13,711
自己株式	(-)23,253	(-)42,947
資本合計	572,015	524,085
負債及び資本合計	649,138	601,807

●単体損益計算書

(百万円)

科目	当期	前期
	平成17年4月1日▶平成18年3月31日	平成16年4月1日▶平成17年3月31日
売上高	223,034	232,858
売上原価	70,061	68,096
返品調整引当金繰入額	280	92
販売費及び一般管理費	107,927	111,984
営業利益	44,764	52,685
営業外収益	5,317	4,738
営業外費用	1,063	823
経常利益	49,018	56,599
特別利益	9,324	44
特別損失	1,394	362
税引前当期純利益	56,948	56,281
法人税、住民税及び事業税	16,763	19,775
法人税等調整額	4,127	726
当期純利益	36,057	35,779
自己株式消却額	19,894	18,943
当期未処分利益	17,837	16,835

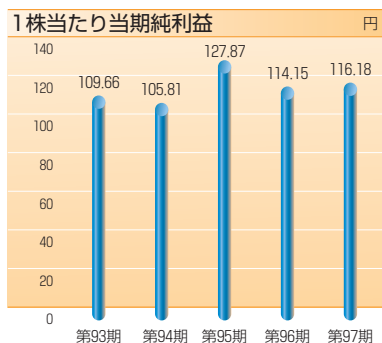
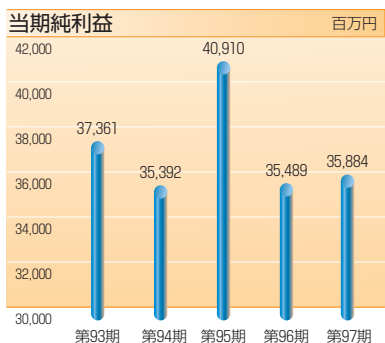
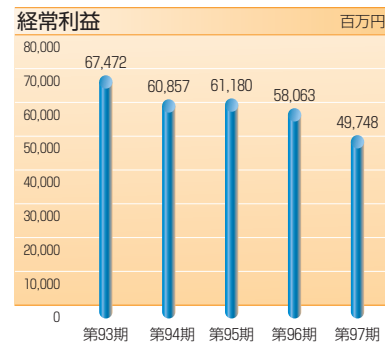
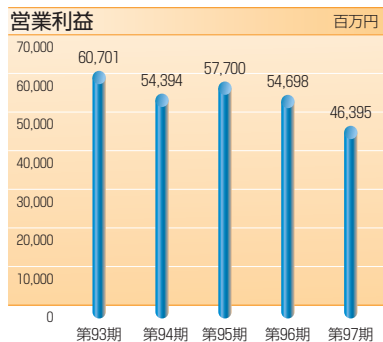
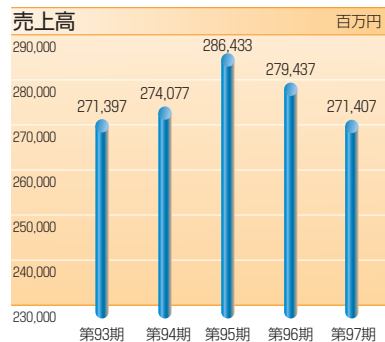
●利益処分

(円)

科目	当期	前期
	平成17年4月1日▶平成18年3月31日	平成16年4月1日▶平成17年3月31日
当期未処分利益	17,837,082,068	16,835,968,660
任意積立金取崩額		
固定資産圧縮積立金取崩額	141,952,844	118,310,653
合計	17,979,034,912	16,954,279,313
これを次のとおり処分します。		
利益配当金	9,246,142,830	7,707,407,025
	1株につき30円 (普通配当30円)	1株につき25円 (普通配当25円)
役員賞与金	73,000,000	73,000,000
(うち監査役賞与金)	(6,000,000)	(6,000,000)
任意積立金		
別途積立金	7,000,000,000	7,500,000,000
次期繰越利益	1,659,892,082	1,673,872,288

# 業績ハイライト (連結)

## Consolidated Financial Highlights



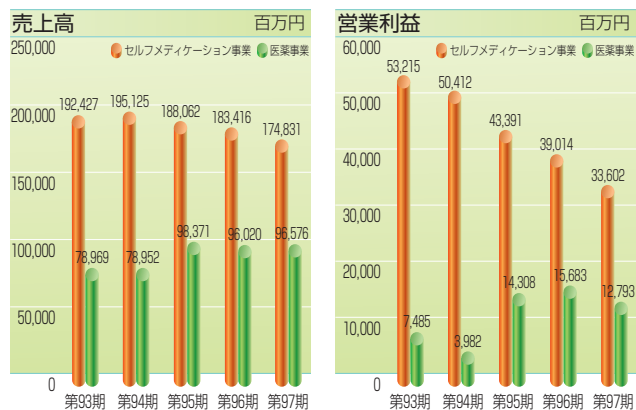
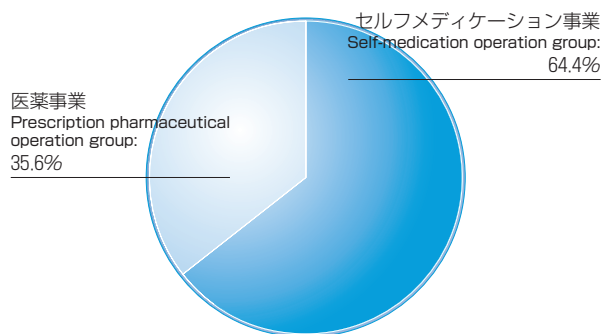
科目	第93期 (平成14年3月期)	第94期 (平成15年3月期)	第95期 (平成16年3月期)	第96期 (平成17年3月期)	第97期 (平成18年3月期)
売上高 (百万円)	271,397	274,077	286,433	279,437	271,407
営業利益 (百万円)	60,701	54,394	57,700	54,698	46,395
経常利益 (百万円)	67,472	60,857	61,180	58,063	49,748
当期純利益 (百万円)	37,361	35,392	40,910	35,489	35,884
1株当たり当期純利益	109円66銭	105円81銭	127円87銭	114円15銭	116円18銭

# セグメント別の概況（連結）

(百万円)

科目	第93期 (平成14年3月期)	第94期 (平成15年3月期)	第95期 (平成16年3月期)	第96期 (平成17年3月期)	第97期 (平成18年3月期)
<b>売上高</b>					
セルフメディケーション事業	192,427	195,125	188,062	183,416	174,831
対売上高比率 (%)	70.9	71.2	65.7	65.6	64.4
一般用医薬品等	183,492	185,233	178,233	172,404	163,866
特定保健用食品等	7,389	8,535	7,876	7,840	8,140
その他	1,547	1,357	1,953	3,172	2,825
<b>医薬事業</b>	78,969	78,952	98,371	96,020	96,576
対売上高比率 (%)	29.1	28.8	34.3	34.4	35.6
医療用医薬品	62,547	61,637	82,129	81,688	81,779
その他	9,647	10,994	10,631	9,391	11,686
工業所有権等使用料収益	6,775	6,321	5,611	4,941	3,111
<b>営業利益</b>					
セルフメディケーション事業	53,215	50,412	43,391	39,014	33,602
医薬事業	7,485	3,982	14,308	15,683	12,793
<b>売上高営業利益率 (%)</b>					
セルフメディケーション事業	27.7	25.8	23.1	21.3	19.2
医薬事業	9.5	5.0	14.5	16.3	13.2
<b>研究開発費</b>					
セルフメディケーション事業	6,691	6,904	6,572	6,674	6,709
医薬事業	25,521	22,622	17,598	16,547	16,362

売上高構成比(平成18年3月期)



## 会社概要（平成18年3月末現在）

商号	大正製薬株式会社
主な事業内容	医薬品、医薬部外品、化粧品、食品、 雑貨などの製造ならびに販売
創業	大正元年（1912年）
会社設立	昭和3年（1928年）
資本金	298億円
従業員数	5,191人（連結）、3,315人（単体）
本店所在地	〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1

### 役員一覧

#### 取締役

上原 昭二	（代表取締役会長）
上原 明	（代表取締役社長）
大平 明	（代表取締役副社長）
堀田 尚孝	（代表取締役副社長）
和気 秀行	（常務取締役）
佐々木 賢明	（取締役）
北村 一泰	（取締役）

#### 監査役

比留間 邦夫	（常勤）
古橋 正裕	（常勤）
森川 敏雄	
佃 孝之	



当社ホームページ  
<http://www.taisho.co.jp/>

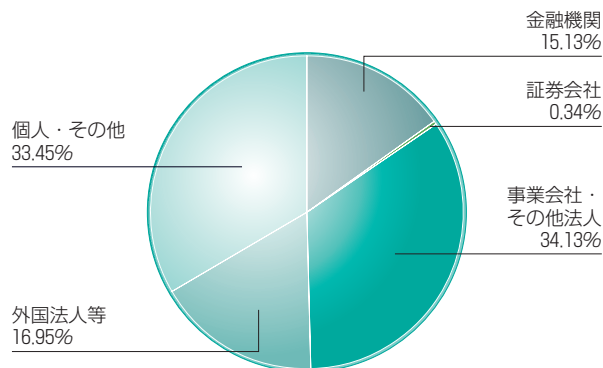
## 株式の状況

発行する株式の総数	普通株式	1,174,959,000株
発行済株式総数	普通株式	320,465,510株
1単元の株式の数		1,000株
株主数		40,632名

## 大株主

株主名	当社への出資状況		当社の当該株主への出資状況	
	持株数 千株	議決権比率 %	持株数 千株	出資比率 %
財団法人上原記念生命科学財団	43,000	14.12	—	—
上原 昭二	36,614	12.02	—	—
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウントアメリカンクライアント	13,798	4.53	—	—
大正製薬株式会社	12,260	—	—	—
住友化学株式会社	12,133	3.98	10,300	0.62
株式会社三井住友銀行	10,000	3.28	—	—
株式会社三菱東京UFJ銀行	10,000	3.28	—	—
財団法人上原近代美術館	10,000	3.28	—	—
上原 明	7,145	2.35	—	—
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	6,345	2.08	—	—

## 所有者別株式分布状況





## 大正製薬株式会社

〒170-8633 東京都豊島区高田3丁目24番1号  
TEL : 03-3985-1111

### 株主メモ

- 事業年度** 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会** 毎年6月に開催いたします。
- 剰余金の配当** 毎年3月31日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主または登録株式質権者にお支払いいたします。
- 基準日** 定時株主総会については3月31日。  
その他必要がある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して報告いたします。
- 株主名簿管理人** 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所** 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- (連絡先)** (〒171-8508)  
東京都豊島区西池袋1丁目7番7号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)  
自動音声応答サービス 0120-86-4490
- 同取次所** 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店  
野村證券株式会社 全国本支店
- 公告掲載新聞** 東京都において発行する日本経済新聞

R100

●この印刷物は古紙配合率100%再生紙を使用しています。



●この印刷物は環境に配慮した植物性大豆インキを使用しています。